

台湾芸術大学でのレジデンス体験レポート

台南芸術大学での制作を終えて思った事は沢山あるのですが、その一つに自分の作品の見え方や見せ方にすごく興味を持ってもらえたという事があります。

私は普段一人で制作していますが、その普段通りの制作過程が興味を持たれる事に私自身が興味を持ちました。

例えば色土を伸ばして組み合わせ、金太郎飴のように模様を作る過程や、それを切って模様が出てくるところ等、自分自身が思っていた以上に見る人は喜んでくれて、まるでマジックの様だと目を輝かせて言ってくれました。また、あなたの作品は作るどころから人を幸せにすると行ってくれた人もいました。その出来事は間違いなく、今後の私の制作する上での糧となり、深く影響してくると思います。

人に見られる環境で制作するという事は、自分がどのように見られているかを改めて考えたり、そこから派生させた制作の仕方等を考えるきっかけにもなりました。頭で考えて形にするという当たり前の過程の中で、当たり前ではない事を知るというのは非常に興味深く、今後何らかの形でそれ表現してみたいという、新たな願望も生まれました。

そして今回、植物の細部を練り込みで表現する新たな挑戦もしました。日本との気候の違いから、大学内でも日本で見た事のないような色鮮やかな植物を多く見かけました。普段から植物をモチーフにする事もありましたが、初めて見る色鮮やかな植物はとても興味深く、毎日のように観察していると、花びらや葉脈の美しさに気付き、それを練り込みで表現したいと思いました。そして今回、最後に作った作品で良い形で投影出来たと思います。

台南で珍しい植物をじっくり観察して気付いた植物の力強さや美しさは、台南に限らず日本でも、どこの世界でも必ず通用するものだと思います。そしてそれは植物のみならず、今後の私自身のモノの見方を変え、必ず作品にも影響してくる事と思います。それはとても嬉しい感覚でした。

最後に、滞在中同じ空間で制作した学生たちや張先生やアーティストの方々に出会って思った事は、国や言葉が違っても「陶芸」という1つのツールを通すと皆同じで、世界は広いと思ったと同時に、世界は思っていたよりも狭く、近く、暖かいものだという事、実際に出会って笑って感じた感覚こそが正しいという事、それに気づけたのはすごくすごく意義深い事だったと思っています。

一ヶ月という短い期間でしたが、とても多くの事を学び、感じる事ができました。素晴らしい経験が出来た事に深く感謝致します。

高橋由紀子

